

学生が語る 学科の魅力

VOICE

※年次および取材内容は2018年1月時点のものです。

海洋を舞台に広がる工学の多様な領域を学ぶ

本学科は、工学や情報科学などの幅広い知見に裏打ちされたエンジニアを育成。機械工学、電気・電子工学、環境科学といった工学の多様な領域から、それぞれの関心に応じて、安全評価や環境保全、新エネルギー開発などの研究に取り組んでいます。



- 高校生のときに理系を選択してからエンジニアに興味があり、また船舶実習を一度は経験したいと思ったからです。(3年 木下)
- 2年次の船舶実習で機械に触れる面白さを学び、より深く学びたいと思ったからです。(4年 谷村)

所属学科を選んだ理由は？

- 海や船に関連したことだけでなく、工学分野を幅広く学ぶことができる学科であるため。(博士課程 前期課程1年生 竹崎)

- 授業でヨットやボートに乗り実際に海へ出るなど、他の学生はしないであろう体験ができることです。(3年 岩佐)

- 学べる範囲が広いところ。私の所属する機関マネジメントコースは船に乗る機会もあり、学びの場が教室だけではないところも、とても魅力的だと思います。(4年 谷村)

所属学科の魅力は？

- 実際に船に乗ることで様々な機器を扱い、長期間の船上生活を体験できます。陸上では学ぶことのできない貴重な経験でした。(博士課程 前期課程1年生 竹崎)

- ヒューマンエラーについて。人間が起こしたエラーを分析して、それをどうしたら改善できるかを研究しています。(3年 木下)
- 燃料インジェクタ内に生じるキャビテーション(液体の気化現象)、特に流れ場に渦が生じることによって引き起こされるストリングキャビテーションについての研究を行っています。(博士課程 前期課程1年生 堀江)

現在、研究しているテーマは？

- EV(電気自動車)の急速充電を想定した電力変換回路の高効率化について、研究しています。(4年 三井)

研究室を選んだときのポイントは？

- 自分が興味を持てる研究分野があること。また、先生・先輩の話やすさ。(3年 岩佐)
- 学部ときに流体力学の講義を受け、流体工学が様々な分野で使われているのを知り、興味を持ったのがきっかけです。その時に講義された先生に指導してほしいと思い選びました。(博士課程 前期課程1年生 堀江)

- 一番は話しやすい先生で選びました。また、大学院進学ではなく就職する卒業生が多いという点。(3年 木下)

- 研究目標を立て、問題に直面した場合に試行錯誤しながら解明、改善していく過程に楽しさとやりがいを感じます。(4年 三井)

研究の楽しさはどこにある？

- 実験は準備期間も含めて長期にわたることが多いのですが、自分が考える結果が出た時はとても嬉しいです。(博士課程 前期課程1年生 竹崎)
- 今まで分からなかったことが、実験し、データ解析を行うことで明らかになっていくところに楽しさがあります。また自分でこうしようとして進められることも非常に良い点です。(博士課程 前期課程1年生 堀江)

将来の夢は？

- 目の前の製品のことだけでなく、国内外を問わず社会を見渡すことができるエンジニアになることです。(3年 岩佐)

- 就職先で、自身の携わる機械をより良いモノにし、世に送り出して達成感を味わいたいです。また、これから女性エンジニアを目指す人のひとつのモデルケースにもなれたら嬉しいと思います。(4年 谷村)

- 自分が開発、設計に関わった製品によって、省エネルギー社会の実現に貢献したいです。(4年 三井)



海事科学部
3年生
岩佐 太陽



海事科学部
3年生
木下 もえ



海事科学部
4年生
谷村 真子



海事科学部
4年生
三井 翔也



海事科学研究科
博士課程
前期課程1年生
竹崎 雅則



海事科学研究科
博士課程
前期課程1年生
堀江 仁美